

## パソコンと近未来の統計

最近、自宅でパソコンを購入した。秋葉原に行ってみると分かるように沢山の人達がワープロやパソコンに群がっている。一軒にパソコンが一台という時代も遠からずやってくるであろう。米国では経済学部や理工学部の学生がパソコンを持つのは必須であると聞いている。

パソコンの最近の発達は素晴らしい。4、5年前の大型計算機の能力を持っていると言っても過言でないであろう。昭和35年の国勢調査の集計のために統計局が初めて導入した大型計算機の記憶容量は20K(2万文字)であった。ちなみに、この機械は20坪ほどの広さの事務所を占有するほどの大きさであった。私が買った机の上に乗る小さなパソコンの記憶容量は640K(64万文字)である。実に驚くべき技術の進歩である。今後更にコンピュータは小さく、早く、廉価なものになるであろう。

今、コンピュータは有りとあらゆるものに使われている。技術計算、座席予約、生産管理など枚挙の暇がない。しかし、米国で初めてコンピュータが作られたのは軍事のためであったが、商用のためには米国のセンサス・ビューローで人口センサスの集計に用いるためであった。つまり、コンピュータが実用化したのは統計のおかげであったのである。それから、40年の月日がたった。コン

ピュータは誰も予測出来なかつた程進歩した。今度は統計がコンピュータによって大きく発展する番ではなかろうかと私は思つてゐる。

その鍵は今急速に普及しつつあるパソコンにある。パソコンというとBASICを思い浮かべる人が多いのでは無いかと思う。面倒な文法、分厚いマニュアルにうんざりした人も多いと思う。ところが、パソコンが8bitから16bitになるにつれてFORTRAN、C言語のような高級言語が使えるようになってきた。また、MULTIPLAN、LOTUS1-2-3に代表されるような誰にでも使えるソフトが次々と発売されるようになった。これらのソフトは表計算やデータベースの構築を簡単に行うものである。つまり、パソコンはプロにしか使えなかつたコンピュータを大衆に解放したのである。

また、パソコン通信の静かなブームがおきてゐると言われている。パソコンにモデムをつけて電話線と結ぶとデータベースを使える大型計算機や他の家のパソコンと結び付いてデータのやりとりが出来ると言うものである。

私もパソコンをワープロとして使つたり、統計解析に使つたりしているほかにパソコン通信を楽しんでゐる。米国では、パソコン・ウィドウという言葉があるそうである。夫がパソコンに夢中に

## 日本IBM社参事役 平尾秀夫

なり妻をかえりみなくなり、妻が未亡人になった  
ような感慨をもつからであろう。

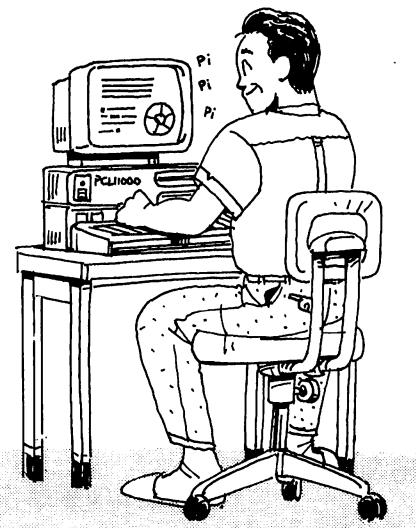
閑話休題。パソコンが各家庭に普及して行けば近未来、統計にどのような変革をもたらすであろうか。まず第一に考えられるのは調査方法の変革であろう。例えば、家計調査を考えてみよう。もし、調査世帯の殆んどにパソコンが普及すれば家計簿ソフトを統計局が調査世帯に配り、それによって調査世帯はデスクトップに家計の内容を記録出来ることになる。そして、調査票の進達の代わりにパソコン通信でデータを統計局に送ることも可能になる。また、小売物価調査では調査員が調査結果をパソコン通信で直ちに統計局に送ることが可能になる。このようなことになれば統計調査の結果の公表時期は一気に速まろう。このように、パソコンは統計データの収集に可なりの威力を發揮するであろう。

次に、統計データの集計の問題である。今まで予め必要な統計表が仮定され、統計書として刊行されてきた。統計のユーザはその中から自分の必要な表を探すしかなかった。コンピュータの能力が十分発達すればそのようなことはなくなり、必要なときに必要な表を求めることが可能になる。予め中間的な表を作成しておき、それから統計表を作成することが可能になろう。洋服でいえば、

レーデーメイドから、イージオーダーになるようなものである。

統計の利用、普及の点はどうであろうか？これこそコンピュータの進歩を満喫できる分野である。コンピュータのメモリーの価格は急速に安くなっている。データベースの利用価格は廉価になり個人が世界各地のデータベースに自由にアクセス出来る時代は確実に近づいている。その時には、数多くの商用データベースが現れるであろう。

夢はとめどもなく広がっていく。統計は、現在の社会を写す鏡であると同時に、未来を導く道標である。統計がさらに大きく発展することを願うものである。



# 平成元年度統計グラフコンクール募集

統計グラフコンクールを次の要領により募集いたします。

なお、毎年第1～3部(小・中学生)に比べ第4部(高等学校以上の学生、生徒)・第5部(一般)の応募作品数が極めて少ない状況でありますので、第4・5部の方々のたくさんの応募をお待ちしております。(表-1)

## 平成元年度茨城県統計グラフコンクール募集要領

### 1. 目的

統計思想の普及向上と統計の表現技術の研さん  
に資するため、県内の児童・生徒・学生及び一般  
県民から統計グラフを募集します。

### 2. 主 催

茨城県、茨城県教育委員会、茨城県統計協会

### 3. 後 援

茨城新聞社

### 4. 応募資格

第1部 小学校3年生以下の児童

第2部 小学校4年生以上の児童

第3部 中学校の生徒

第4部 高等学校以上の学生、生徒

第5部 一般

### 5. 課 題

自由、但し、第1部は児童が観察した結果をグラフにしたものとします。

### 6. 応募の方法

#### (1) 用紙の大きさ

第1部～第3部 B2判仕上(72.8cm×51.5cm)

第4部・第5部 B1判仕上(103.0cm×72.8cm)

#### (2) 紙質・色彩

各部とも紙質・色彩(単色でも可)は自由ですが、裏面の板張り、表面のセロハンカバー等は認めません。

#### (3) 応募点数

制限しませんが、2枚以上にわたる「シリーズもの」は認めません。

#### (4) 送付先

第1部～第3部 別途事務取扱により定めます。

第4部・第5部 県企画部統計課

(水戸市三の丸1—5—38)

#### (5) 締切日

平成元年9月12日(火)

### 7. 応募上の注意

(1) 応募作品は、自分で創作したものに限ります。

(2) 応募作品の裏面に、住所、氏名、性別、年齢、職業を明記し、氏名には必ず「ふりがな」をつけること。

(3) 自己の観察によった場合は観察記録を必ず添付すること。

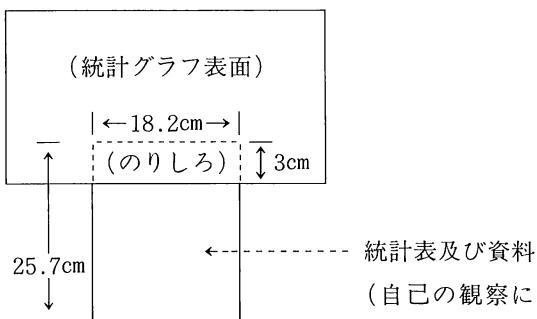
(4) 他から資料を利用した場合は、その取材資料の出所を作品表面の適宜の位置に明記するとともに、統計表及び取材資料を別紙として添付すること。

(5) 観察記録及び統計表(取材資料の出所を含む)

はB5判(25.7cm×18.2cm)の用紙に書き、作品の裏面下に3cmの「のりしろ」で次のように貼付すること。

例：用紙を横長に用いた場合

(縦長に用いてもよい)



(6) 応募作品の合作は5名以内に限ります。

## 8. 入選作品の審査

### (1) 審査員

学識経験者及び行政機関等の職員

### (2) 審査方法

#### ア 地区審査

第1部～第3部の作品について教育事務所単位で審査します。

#### イ 県審査

地区審査で入選した作品及び第4部・第5部については、全作品について審査します。

## 9. 入選区分及び賞

### 入 選 知事賞(各部1点)

県議会議長賞(各部1点)

県教育長賞(1～3部について各3点)

茨城新聞社長賞

(1～3部について各1点)

県統計協会総裁賞(各部5点)

県統計協会長賞(各部10点)

佳 作(県企画部長賞)

地区審査佳作(統計教育研究部長賞)

(1～3部各10点)

その他 努力賞(入選以外の応募作品)

優秀校賞(小学校10校、中学校5校)

奨励校賞(小学校25校、中学校5校)

## 10. 入選作品の発表

平成元年9月下旬に発表し、第1部～第3部については、統計教育各地区支部長及び所属学校長に、第4部・第5部については本人あて通知します。

## 11. 全国コンクールへの出品

入選作品中、特に優秀とみとめられる作品について各部5点を全国コンクールへ出品します。

## 12. 表彰、作品展示

入選作品は茨城県統計大会会場に展示(佳作を除く)し、表彰するとともに、巡回展示会場等(県内小中学校会場・水戸川又書店)で展示します。

## 13. 応募作品の帰属

応募作品のうち入選作品の著作権は主催者に帰属します。

## 14. 応募等の問合せ

茨城県企画部統計課

(☎ 0292-21-8111・内線2652)

## 統計グラフ作成上の留意点

過去の審査経過からみて、グラフとしては優れた作品であっても、形式的要件が備わっていないなど、内容に不備や過誤があるため、選外とされる作品が意外に多くみられますので、提出前に次の諸点を十分に見直してください。

### 1. 応募規定に関するもの

- (1) 観察記録が添付されていること。  
(応募要領7(3))
- (2) 取材資料の出所をグラフ作品の表面上の適当な位置に明記すること。(同7(4))

### 2. 作品の規格及び基本的事項に関すること

- (1) 用紙の大きさ、作品の主題等が応募規格に適合すること。
- (2) 基線を表す0を確実に記入すること。

- (3) 単位(人とか個など名数の単位)を明確にすること。
- (4) 円グラフ、帯グラフ等の百分率で数量を表示するグラフについては、元の数量(総数)の表示をすること。
- (5) 統計表等の計算に誤りがないこと。
- (6) 誤字、脱字をしないこと。
- (7) 縦書き2行以上にまたがる文の場合の書き方は、原則として右から左へ移っていくこと。
- (8) 調査年月日、凡例等の記入を忘れないこと。

### 第36回(昭和63年度)統計グラフ全国コンクール応募・入選等作品数

表-1

都道府県	応募作品数						入賞作品数		
	第1部	第2部	第3部	第4部	第5部	合計	入選	佳作	合計
北海道	39	88	14	—	3	144	—	3	3
青森	127	164	11	4	2	308	2	—	2
岩手	100	176	6	8	—	290	—	—	—
宮城	147	238	496	4	6	891	—	5	5
秋田	87	98	7	2	1	195	—	—	—
山形	30	139	26	—	1	196	—	—	—
福島	175	496	17	5	2	695	—	1	1
新潟	142	299	47	—	2	490	3	2	5
茨城	4 265	5 806	1 356	—	4	11 431	4(1)	6	10
栃木	53	68	32	—	9	162	—	4	4
群馬	626	1 068	469	—	18	2 181	7	2	9
埼玉	188	749	2 555	1	6	3 499	3(1)	6	9
千葉	802	1 321	1 657	1	2	3 783	1	1	2

表一 つづき

都道府県	応募作品数						入賞作品数		
	第1部	第2部	第3部	第4部	第5部	合計	入選	佳作	合計
東京	22	294	1 011	5	7	1 339	—	2	2
神奈川	1 571	3 049	2 577	17	—	7 214	2	5	7
山梨	45	100	32	1	—	178	—	—	—
長野	615	2 277	779	4	1	3 676	2	3	5
静岡	1 710	3 085	1 696	—	—	6 491	5	2	7
富山	44	88	432	2	—	566	1	1	2
石川	25	57	125	—	3	210	—	2	2
岐阜	3 453	3 183	329	6	1	6 972	1	2	3
愛知	218	814	738	12	—	1 782	—	6	6
三重	7	65	486	—	—	558	—	1	1
福井	649	1 353	3 149	—	—	5 151	—	—	—
滋賀	339	630	748	—	—	1 717	—	1	1
京都	16	386	133	6	3	544	2	—	2
大阪	35	476	5	9	1	526	1	—	1
兵庫	230	585	505	65	11	1 396	6(1)	4	10
奈良	387	1 146	233	—	—	1 766	—	—	—
和歌山	16	5	52	—	—	73	—	—	—
鳥取	48	60	11	—	3	122	—	1	1
島根	40	130	74	—	2	246	—	—	—
岡山	149	264	84	—	—	497	—	2	2
広島	52	147	22	—	—	221	—	—	—
山口	20	34	73	5	—	132	—	—	—
徳島	7	20	22	13	—	62	—	2	2
香川	850	832	1	27	—	1 710	6(1)	2	8
愛媛	3 403	3 671	573	—	—	7 647	—	4	4
高知	44	85	28	—	—	157	1	2	3
福岡	80	187	38	—	3	308	—	1	1
佐賀	189	422	122	14	7	754	—	2	2
長崎	21	35	11	—	2	69	1	—	1
熊本	61	95	2	—	1	159	—	—	—
大分	75	184	92	24	—	375	3	1	4
宮崎	46	112	14	1	—	173	1(1)	—	1
鹿児島	50	157	15	9	—	231	—	—	—
沖縄	12	35	334	—	—	381	—	—	—
合計	21 310	34 773	21 239	245	101	77 668	52(5)	76	128(5)

(注) 全統連受理(香港等)10点 総合計77,678 香港…佳作1  
 ( )内数字は特選を内数で示す。